

JCSS Newsletter



CONTENTS

- 1 ご挨拶・祝辞
- 2 設立の経緯と経過
- 3 活動方針
- 4 2007年度活動報告
- 5 2008年度活動計画
- 6 情報交換スペース
- 7 資料
- 8 事務局 問い合わせ
- 9 参加学協会紹介（別紙）

社会学系コンソーシアム設立

JCSS (Japan Consortium for Sociological Societies)

ご挨拶

「社会学系コンソーシアム」のアイデアと構想が共有されたのは2006年11月にさかのぼります。広く社会学領域で活動する社会学系諸学術団体がゆるやかな連合体としてひとつになり、さまざまな問題に対処し、また新しい学問展開の可能性を追求するという提案に私たちは興奮を覚えました。それ以来、学問・学術団体を取り巻く環境はどのようなものか、またそれぞれが抱える問題は何か、将来必要な事柄は何かなどを検討しながら、コンソーシアムが取り組むべき課題を描き出してきました。長い準備期間を経て2008年4月から、社会学系コンソーシアムは本格的稼動に入ります。

学問研究をめぐる環境は大きく変化しています。学問体系の多様化と細分化、学際的領域の普及と発展、調査環境の変化、学問の国際化、さらには新領域の創生など、実に多くの事柄に研究者は対応していかなければなりません。われわれはこうした変化に対応しながら既存の研究機会の拡大に努め、また新しい可能性を拓く研究機会を創り出してしていかなければなりません。

このような研究環境の育成の一助となるよう、社会学系コンソーシアムは今後一層努力を積み重ねてまいりたいと考えております。何卒、コンソーシアムの活動にお力添えをくださいますよう謹んでお願いいたします。

社会学系コンソーシアム幹事一同

祝辞

このたびは、日本学術会議の社会学委員会に登録いただいたおよそ30の協力学術研究団体からなる社会学系コンソーシアムが設立されることになり、お喜び申し上げます。

新生日本学術会議では、学協会との会員推薦におけるつながりは解消されましたが、むしろこれを機に、学協会との前向きな連携関係の構築により、学術の一層の発展が期待されているところです。特に、社会学委員会では、コンソーシアムとの有機的なパートナーシップを確立し、学協会間の接着剤としての役割を果たしてまいりたいと考えております。学協会間のジョイント研究大会や学会大会の開催、学協会の企画に対する学術会議の共催や後援、他学術分野との交流、共通に抱えている問題への取り組みなど様々な課題について、学協会とのコラボレーション活動を進めさせていただく所存です。とりわけ、日本社会学の国際化が大きな活動指針として掲げられていることは心強い限りであり、社会学委員会としても可能な限りの支援を惜しみません。社会学系コンソーシアムが社会学関連の学協会からなる横並びのネットワークを形成し、社会学の将来を共に考え、議論できる場となることを祈ってやみません。

日本学術会議社会学委員会
委員長 今田高俊

設立の経緯と経過

発足の経緯：

2006年11月10日、日本学術会館にて日本学術会議社会学委員会（委員長＝今田高俊東工大教授）の呼びかけのもと「日本学術会議社会学系学協会懇談会」が開催されました。出席者は、日本学術会議社会学委員会から5名、学協会の代表16名でした。この会合では、社会学委員会より以下のような問題提起がなされました。

現在、学協会間での連携・交流が少ない。他方、住民基本台帳閲覧制度見直しやジェンダーなどの複合分野の登場など、複数の学協会が協同して対応すべき諸事項・諸問題が出てきている。こうした諸案件に対応するため、学協会間の横断的な連絡組織を形成することが望ましいのではないか。

この提案を受け審議が行われ、社会学系学協会を基礎として「社会学系コンソーシアム」を設立することが決定されました。

その他、社会学系コンソーシアム幹事団体を日本社会学会、地域社会学会、数理社会学会とすること（この時点では候補、後に各学協会理事会の承認を経て正式確定）が決定されました。また幹事団体を中心に、今後、定例会議の開催、コンソーシアム設立趣意書・規約作成、事務局等コンソーシアム運営資金形成などを議論し実行することが話し合われました。

その後の経過：

2007年3月、コンソーシアム事務局（当時仮称、2007年8月に正式成立）はコンソーシアムメーリングリストの作成を手始めとして基盤整備作業に着手しました。

2007年6月には「日本学術会議社会学委員会有志および社会学系コンソーシアム幹事団体第一回会合」が開催され、コンソーシアムの活動指針と今後の具体的活動内容について話し合われました。その中で、将来コンソーシアム自体を学術協力団体連合体として登録すること、事務局の設置、活動資金の検討、日本の社会学を海外に紹介する媒体（仮称＝Annual Report）の作成、参加学協会に対して定期的に配布するNews Letterの作成などの提案がなされました。

その後、コンソーシアム幹事団体で再度協議の場を持ち、2007年度は以下の諸点について活動を進めることとなりました。

- ・専用メーリングリストの充実
- ・事務局の設置
- ・運営予算作成と参加学協会への負担依頼
- ・News Letter第一号の作成・配布（参加学協会紹介を含む）
- ・Home Pageの作成
- ・設立趣意書草稿作成と学術団体連合体として登録するための準備

活動方針

一般活動方針：

コンソーシアムは、諸学術団体が連携を組むことによって参加団体間の交流促進を図り、共通する諸課題の解決や新たな学問研究領域の開拓をより効率的に行うことを目指しています。この点について、設立趣意書草稿（下記資料欄「資料(1)」に掲載）もご参照ください。

日本学術会議との関係：

2006年11月10日の懇談会で、社会学系コンソーシアムと日本学術会議とは今後対等なパートナーシップ関係を築くことが提案されました。これは、関連学協会が日本学術会議のリーダーシップのもとに活動していた時代からの脱却を目指すものです。日本学術会議社会学委員会はこれにより必要に応じて社会学系コンソーシアムとの協同のもとで事業を展開することになります。また社会学系コンソーシアムは独立した組織として、参加学協会の公益と社会学系諸分野の発展のために活動していくこととなります。

参加学協会：

2007年12月現在、社会学系コンソーシアムに参加している学協会は31です。この中から日本社会学会、地域社会学会、数理社会学会の三団体がコンソーシアム幹事団体となりました。

将来、学術団体連合体として日本学術会議への正式登録を考えておりますが、その段階で、再度組織構成について検討いたします。本ニューズレター巻末にて参加学術団体を紹介しております。

2007年度活動報告

コンソーシアム幹事会と事務局では、2007年度をコンソーシアムの基盤構築期間に充て、以下の諸活動を推進してきました(2007年12月現在)。

- ・ 専用メーリングリストの作成：参加学協会にコンソーシアム関連窓口の設置を依頼し、メーリングリストを作成しました。参加学協会の方にはいつでもご利用いただけます。
- ・ 事務局の設置：上智大学内に事務局を設置しました。現在二人の事務局員が職務についています。
- ・ 財政骨子の作成：社会学系コンソーシアム事業を継続的かつ円滑に運営するため、2010年度までの大まかな予算を作成しました。また参加学協会に財源負担をお願いしました。負担額は、学協会の規模に応じた配分としました(下記の資料欄「資料2」を参照のこと)。
- ・ News Letter第一号の作成・配布：本ニュースレターになります。(参加学協会紹介を含む)。
- ・ Home Pageの作成：2008年の2月と3月の事業になります。4月には開設の運びとなります。
- ・ 学術団体連合体としての登録準備：すでに設立趣意書の草稿を作成しました。2008年6月のコンソーシアムシンポジウムの時に規約などの審議をお願いするため、現在準備をすすめております。

2008年度活動計画

2008年度からコンソーシアム活動は軌道に乗り出します。大きく三つの領域での活動を予定しています。

(1)コンソーシアム・キックオフ・シンポジウム

日本学術会議社会学委員会との共催にて以下のスケジュールで開催を予定しています。

日時：2008年6月7日(土)

場所：日本学術会館

シンポジウムでは、現代日本社会をどう捉えるか、また日本の社会福祉の現状はどのようであるか、それに対して学協会は何ができるのかといった問題を中心に、パネルディスカッションを交え議論していく予定です。詳細は後日連絡いたします。

(2)コンソーシアム基盤整備事業

2007年度に引き続き、以下の諸点を中心にコンソーシアムの基盤整備事業を行います。

- ・ News Letter発行
- ・ Home Pageの完成と充実：2008年4月には開設の予定です。
- ・ 学術団体連合体としての登録：コンソーシアム規約等を整備し、学術団体連合体として2008年度の登録を予定しています。

(3)コンソーシアム交流促進活動の展開

2008年は、コンソーシアム未登録の社会学系学協会に対してコンソーシアム参加を呼びかけ、

規模の充実を図ります。また以下のような活動スペース(すべて仮称)を展開し、参加学協会に対する情報提供などの還元を充実させていきます。

- ・ 情報交換スペース：各学協会からの連絡事項(シンポ、コンファレンス、研究会、国際会議、学会大会など)の内容を充実させていきます。
- ・ 「呼びかけ」スペース：共同開催、協同作業のお誘い(シンポジウム、コンファレンス、研究会など)の内容を充実させていきます。
- ・ 「お悩み」スペース：参加学協会各自が現在悩んでいること、抱えている問題を共有し、解決を協同して考えるスペースを設置します。
- ・ 国際動向スペース：世界各地での社会学系学術団体の動向を紹介していきます。
- ・ 国際連携・国際発信スペース：コンソーシアム参加学協会が国際連携活動をより円滑に進めるための諸機会の開示・提供をします。2008年度は、この一部の作業を手がける予定です。
- ・ 「ご意見」スペース：コンソーシアムが将来手がけるべき案件や課題のご提案またご意見などいただき、それらを活動に反映させることでコンソーシアムをより有用なものにしていきます。

情報交換スペース

◆日本社会福祉学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/jssw/>
 第7回政策・理論フォーラム
 テーマ：「社会福祉政策・理論はいのち・人権とどう向き合うのか」
 日時：2008年3月16日（日）
 10:00～17:00（受付9:00～）
 場所：西九州大学4号館第1視聴覚教室
 （佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9 JR神埼駅下車スクールバス利用）
 詳細：日本社会福祉学会ホームページ
<http://www.soc.nii.ac.jp/jssw/>

2008年度日本社会福祉学会大会
 日時：2008年10月11日～12日
 場所：岡山県立大学
 詳細：プログラムの詳細などの詳細は4月ごろに決定予定

◆関東社会学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/kss/>
 2007年度第2回研究例会
 テーマ：「社会学における歴史的資料の意味と方法」
 報告者：香西豊子、角田隆一
 司会：菊池哲彦
 日時：2008年3月1日（土）
 14時から18時
 場所：日本女子大学目白キャンパス百年館低層棟204

関東社会学会第56回大会
 日時：2008年6月21日（土）22日（日）
 場所：首都大学東京南大沢キャンパス

いずれもコンソーシアムメンバー学会の学会員諸兄姉のご参加を歓迎します。

◆日本家族社会学会

<http://www.wdc-jp.com/jsfs/regulation/index.html>
 第18回日本家族社会学会大会
 日程：2008年9月6日（土）7日（日）
 ※未確定、調整中
 場所：大正大学（東京都豊島区）

◆日本解放社会学会大会

<http://sociology.r1.shudo-u.ac.jp/liberty/index.html>
 第24回日本解放社会学会大会
 日時：2008年9月6日（土）7日（日）
 場所：中京大学（名古屋キャンパス）にて開催予定
 テーマ部会：「エイズ問題の社会的アプローチ（仮題）」

◆日本スポーツ社会学会

<http://www.jsss.jp/>
 第5回国際スポーツ社会学会世界大会
 テーマ：“Sport and Society at Crossroad”
 スポーツのグローバル化が叫ばれる中、今回はスポーツ社会学の原点に立ち戻って、スポーツと社会の関連やその狭間を考え、アジアから世界に発信しようと思っております。
 世界40カ国以上から約250名の参加が見込まれており、世界的なネットワークを作るチャンスでもあります。オリンピック・イヤーと重なっていることから、社会的にも注目される大会になります。

日時：2008年7月26日（土）29日（火）
 場所：京都大学
 詳細：<http://jsss.jp/issa2008.html>（登録サイトから、参加や発表申し込み、ホテル予約が可能）

- ・主な締め切りは以下のとおり
- 2月29日 抄録（Abstract）締め切り
- 3月31日 発表の承認
- 4月30日 早割り申し込みの締め切り
- 7月11日 ネットによる申し込みの締め切り

資料

資料1：社会学系コンソーシアム設立趣意書草稿

社会学系コンソーシアム（Japan Consortium for Sociological Societies）は、多数の社会学系学協会が連携することにより新しい研究機会と実践機会を創り出し、また研究成果や政策提言を国内外に積極的に発信することで社会学界の新しいビジョンを構築することを目指します。

社会学は、その多岐にわたる関心をもとに諸分野に分化し発展してきました。それぞれの研究領域での発見や実践を深めることで、知見の創出や実社会への具体的貢献を生み出してきました。またこうした活動によって広く社会学全体の発展が押し進められてきました。

他方、このような専門細分化による学問推進は、広く社会学に接する諸分野間の交流機会には必ずしも結びつきません。各学協会が相互の連携を密にすることによって、それぞれが持つ研究・実践リソースをより効率的に活用することができます。社会学系学協会の活動を取り巻く環境が複雑化する今日、多くの学協会が多様な問題を抱えています。われわれは、政策提言などの形でこうした問題に力を合わせて対応していく必要があります。また、国境を越えての学問・実践交流が唱えられる今日、より高い水準の研究実践を対外的に発信するためにも、諸学協会の積極的な協力・連携が必要です。

学協会間の連携を図ることに、より、諸学協会に共通する問題に対応し、提言を行い、かつ国

内外に向かって研究実践の成果を発信することをその趣意として、社会学系コンソーシアムを設立いたします。

※本趣意書は仮案です（2007年8月1日起草）。2008年度6月に開催予定の第一回定例会議にて参加学協会にて審議し、最終決定いたします。

資料2：コンソーシアム予算と参加学協会分担金配分

コンソーシアム予算（暫定）
コンソーシアムの正式会計年度は2008年度からになります。参加学協会には2008年度から運営費分担をお願いいたします。2007年度の基盤整備作業に要する費用は一時的に立替え、2008年・2009年の会計年度からの償還を行うことによって償却します。

<2007年度>

事務局運営： 24万円
(3万円 (1500円×20hrs) ×8ヶ月)
HP作成運営： 10万円
合計 34万円

<2008年度>

事務局運営： 36万円
(3万円 (1500円×20hrs) ×12ヶ月)
2007年度借入償還金 17万円
定例会議開催： 17万円
HP管理運営： 5万円
合計 75万円

<2009年度>

事務局運営： 36万円
(3万円 (1500円×20hrs) ×12ヶ月)
2007年度借入償還金 17万円
定例会議開催： 17万円
HP管理運営： 5万円
合計 75万円

<2010年度以降>

事務局運営： 36万円
3万円 (1500円×20hrs) ×12ヶ月)
定例会議開催： 17万円
シンポジウム等特別企画：17万円
HP管理運営： 5万円
合計 75万円

参加学協会分担金配分

- ◆各学協会所属会員 100名～500名未満 分担金 1万円
- ◆500名～1000名未満 分担金2万円
- ◆1000名～2000名未満 分担金3万円
- ◆2000名～3000名未満 分担金 6万円
- ◆3000名～ 分担金 10万円

参加学協会紹介（アイウエオ順、2007年12月現在） 別紙を参照ください

事務局・問合せ

社会学系コンソーシアム幹事
布施晶子（日本社会学会）
藤田弘夫（地域社会学会）
野宮大志郎（数理社会学会）

「編集後記」

社会学系コンソーシアム設立おめでとうございます。数多くの学協会からのご参加をいただき、事務局一同身が引き締まる思いであります。

Newsletter 第一号はいかがでしたでしょうか。はじめての経験で、大変緊張しております。うまくいったかどうか不安が残りますが、今後不備な点など、ご指導いただけましたら幸いです。情報スペースには、多くの団体からの情報をお待ちしております。また、その他のお問い合わせも歓迎いたします。

事務局一同今後の社会学系コンソーシアムの発展を心よりお祈りいたします。

事務局（上智大学内）
藤田泰昌・片野洋平
TEL：03-3238-3567
E-mail：
soconsortium@activemail.jp